

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名【新】清流の国ぎふ若手演奏家育成支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 文化創造課 文化振興係 電話番号：058-272-1111 (内3121)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

若手演奏家は、出演の機会が少ないことによる経験不足や、公的支援の知識不足等により、高い演奏技術があっても自らコンサートを企画・運営できないといった課題に直面している。

県内の音楽文化振興のためには、次代を担う若手の育成は喫緊の課題であり、これら課題を解決するため、県内の若手演奏家を対象に公演企画力を培い、経験不足を補うため活躍の機会の提供が求められる。

(2) 事業内容

公演のノウハウ、助成金のしくみ、広報等イベント開催の基礎を学ぶ専門講座を開催。また、座学に加え実習として、自ら企画したコンサートを開催してもらおう。開催にあたっては、規模の大きな公立施設ではなく、公演企画初心者でも運営しやすい小規模ホールを活用する。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化振興を図る重要な事業であり、全額県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,000	
合計	1,000	

決定額の考え方

県の関与していない協定に基づく事業であり、県による支援の必要性が不明なため、計上を見送ります

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創成総合戦略による位置づけ
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - ① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

(2) 国・他県の状況

石川県	県内の文化団体活動の活性化 ・若手芸術家活動支援事業	令和4年度	80,000千円
栃木県	頑張る若手芸術家応援事業	令和4年度	2,000千円
千葉県	若者の文化芸術活動育成支援事業	令和4年度	1,200千円

(3) 事業主体及びその妥当性

本補助金を受けて(公財)岐阜県教育文化財団が事業を実施する。

(公財)岐阜県教育文化財団は、人材の養成と県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動している財団であり、事業主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	清流の国ぎふ 若手演奏家育成支援事業費補助金
補助事業者 (団体)	(公財)岐阜県教育文化財団 (理由) 当該財団は、人材の養成や県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継
補助事業の概要	(目的) 県内文化の振興 (内容) 若手演奏家育成支援事業に係る費用を補助
補助率・補助単価等	その他 (全額県負担) (内容) 県10/10 (理由) 本県の文化振興事業を円る重要な事業であり、補助対象経費を全額県負担とする。
補助効果	事業によって県文化の発展・継続が見込める
終期の設定	終期年度の設定は困難 (理由) 人材育成には時間を要し、活動の定着には継続的な事業展開が必要であるため。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>県内の若手演奏家を対象に公演企画力を培い、経験不足を補うため活躍の機会の提供することで、県内の音楽文化を振興する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R3年度実績	R4年度目標	R5年度目標	終期目標 (R)	
					達成率	
①助成件数	0	/	/	4	4	

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	/	/	/

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 3 年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

	<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない
(評価) 3	コロナ禍において、活躍の機会が少なく、公的支援の知識不足である若手演奏家を支援し、県内の音楽文化振興に繋げるため、事業の必要性が高い。
	<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)
(評価)	
	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県民ニーズをもとに講座内容を検討しながら、県内の若手演奏家の育成、活躍の機会の提供するため、継続して実施する。
